

〔東遊記〕五三尊窟

伊豆國は駿河相模の二國にはさまり箱根より南海中へ二十五里出張りたる國なり、○中志摩國鳥羽の湊より此國の下田の湊まで七十五里の海を遠州灘と稱して日本第一の大洋とす、下略

〔伊豆海島風土記〕中御藏島は、○中三宅島よりは五里ばかり南へはなれ八丈灘に近き島ゆへ、沙行甚だ早し、

〔萬葉集〕十天平二年庚午冬十一月太宰帥大伴卿被任大納言兼帥如舊上京之時陪從人等別取海路

入京於是悲傷羈旅各陳所心作歌十首○中

昨日許曾敷奈底婆勢之可伊佐魚取比治奇乃奈太乎今日見都流香母、

〔忠見集〕伊豫に下るによしあるうかれめに、

音にき、めにはまだみぬ播磨なる響のなだと聞はまことか

〔河海抄〕十李部王記云天慶○慶原作四年六月十一日是日備前備中淡路等飛驒至備前使申云、

賊二艘純也從響奈多捨舟脫遁疑入京歟云々、

〔源氏物語〕二十「はや船といひてさまことになんかまへたりければ思ふかたの風さへす、みて、あやうきまで走りのぼりぬ、ひゞきの灘もなだらかにすぎぬ、○中略

うきことに胸のみ騒ぐひゞきにはひゞきの灘もさはらざりけり

〔筑紫紀行〕四周防の國を北の見四國を南に見る海上荒潮の色蒼茫たりいはゆる周防灘なり、○中略

荊田の宿小倉より是迄三里中に至る此所も小倉の殿の御領なり濱邊にて人家六十軒計あり多くは

漁者農夫なり宿屋少うして問屋場に本陣を兼たる林田五郎左衛門といふ人の家に宿る座席

廣々として縁先より見渡せば周防灘の白浪殘る所なく望中にあり近くは十丁許り東の方の